

マーケットの動き（2022年7月11日～7月15日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は小幅に低下しました（債券価格は上昇）。週の前半は、世界的な景気後退懸念の高まりから欧米長期金利が低下したことを受け、国内金利にも低下圧力がかかりました。週の後半は、6月の米国CPI（消費者物価指数）が予想を超える伸びとなったことを受け米国短期金利が上昇する一方、米国長期金利は低下しましたが、既に金利低下が進んでいた国内長期金利は低下幅が限られました。クレジット市場は、新発債に需要がみられた一方、既発債は軟調な需給が継続しました。

投資環境見通し（2022年7月）

国内長期金利はレンジ内での動き

国内長期金利は、海外の長期金利や金融政策の動向に加えて、将来の日銀の金融政策変更を巡る観測から、中期あるいは10年超の年限で変動率が高まるとみえています。しかし、日銀は連続指値オペの対象銘柄を拡大し、現行の緩和的な金融政策を継続する姿勢を強く示しており、国内長期金利は日銀が変動許容幅の上限とする0.25%を中心としたレンジ内での動きを予想しています。

	7月15日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.23	▲0.01	▲0.01	0.09	0.22
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	376.81	0.21%	0.60%	▲2.17%	▲3.08%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202207_outlook.pdf

日本国債利回りの推移



NOMURA-BPI総合指数の推移



※2021年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>